

長次郎のことについてのインタビュー

市民図書館の足達康さんにインタビュー

事務室で聞きました



近藤長次郎は、饅頭屋に生まれたので饅頭屋長次郎と呼ばれていて、おとくさんと結婚してしかも子どもも生んでたんです。

子どもは二人生まれていました。名前は百太郎と栄だよ。坂本龍馬と近藤長次郎は、海援隊の仲間と言われていました。

北村しずこさんにインタビュー



第四小の、職員室で聞きました。

長次郎の少年時代について北村静子さんに聞きました。北村静子さんは、先祖が長次郎の家の、近所で北村静子さんのおばあさんの、おばあさんからさしていた話を聞きました。

・長次郎はサムライとみとめられなくて竹で切腹させられたともいわれています。

・長次郎は本を買うお金がないから貸し本屋で本をかりて、家に帰ると仕事をしなければならぬので、道ばたの、木のかげとかで読んでいたんです。

・あと、長次郎は大人になって龍馬にかわいがられて、「饅頭屋」と呼ばれていました。

三浦さんに長次郎のことを聞いて、こんなことが、わかったよ。

・志行ゆきみでと、長次郎の家は、10軒ぐらいしか家が、はなれていません。

・長次郎は、二丁の学問の修行へ、出ていました。

・長次郎は土佐では、自分の名字を名のれなかったから「饅頭屋長次郎」と、呼ばれていました。

・「本当は切腹したかは、なぜで竹で切腹をしているふりをしているかもしれない」と言う本もあります。

長次郎の主なできごと

- ・17歳で、河田小龍に入門しました。
- ・子供のころは、本読みが大好きで、読んでいました。
- ・まんじゅうは、うれないときは、伊野まで売りにいってました。
- ・29歳のとき、長崎でせっぷくさせられました。

長次郎の少年時代

長次郎はまんじゅうをかついでとおくまで売りに行ったことがあります。そして売ったお金で、本を借りました。あと木のかげで本を読んでいた。

一生けん命、勉強をしてもものしりになりました。

切腹の理由

亀山社中の仲間にもっこうすることがばれ切腹させられた時のはかまが市民図書館にあります。そのはかまには、今でも血がついています。こん色のふしぎなもようでした。

長次郎の活躍

江戸幕府にいらまれて、ほしい銃も買えなかった長州藩のために、薩摩藩のものということにして、最新式ミニエール銃などを買って運んでやりました。幕府と長州藩の戦争では、主にミニエール銃で戦った長州軍がゲベール銃にたよっていた幕府軍に大勝しました。このことが後の薩長連合の成功につながりました。

はかまを見たよ

裏に歌が、書かれていました。それは長次郎の息子の百太郎が、かいた歌です。明治31年に、名誉回復して、故長次郎に正五位の位が贈られたので、それを喜んで呼んだ歌です。

はかま (表)



はかま (裏)



感想のページへ

Back

TOPへ